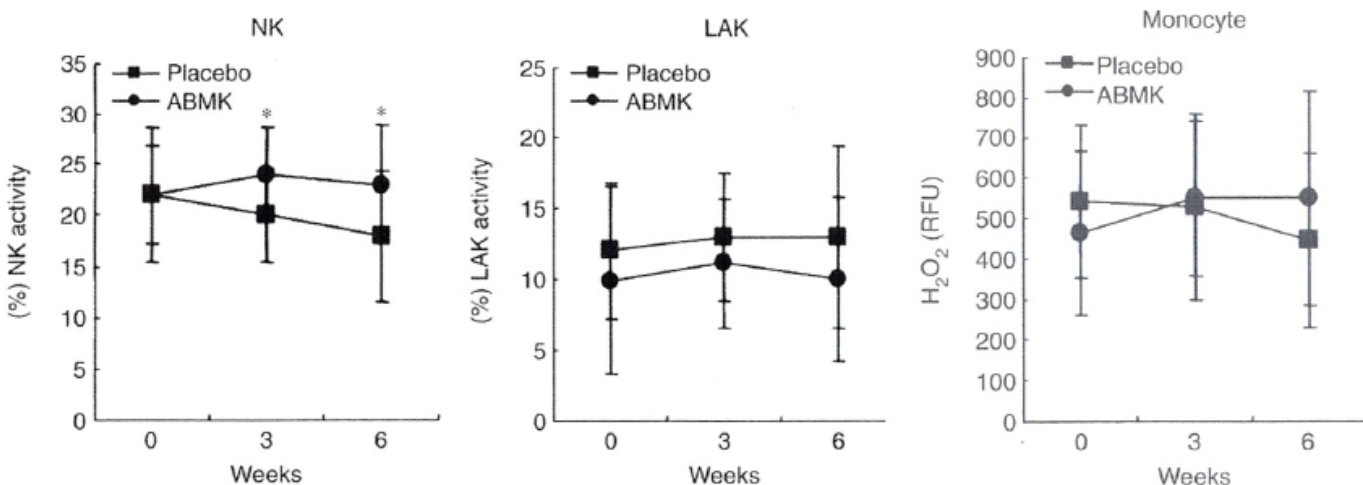


ナチュラルキラー細胞活性および生活の質は、化学療法中の婦人科がん患者において、アガリクス茸抽出物であるAgaricus blazei Murill Kyowaの摂取により改善された。

(Abstract)

アガリクス茸抽出物、Agaricus blazei Murill Kyowa(ABMK)は、抗変異誘発および抗腫瘍効果を有することが報告されている。ここでは、本研究者らは、化学療法を受けているがん患者における免疫学的状態および生活の質に対するABMK摂取の有益な効果を調査している。100例の子宮頸部、卵巣、および子宮内膜がん患者は、カルボプラチン(300mg/m²)+VP16(エトポシド、100mg/m²)、またはカルボプラチン(300mg/m²)+タキソール(175mg/m²)のいずれかで、3週間毎に少なくとも3サイクル、ABMKの経口摂取があり、またはなしで治療した。我々は、ナチュラルキラー細胞の活性が、非処置偽薬群(n=61)と比較したとき、ABMK処置群において有意に高いことを観察した(ANOVA、n=39、P<0.002)。しかし、リンホカイン活性化キラーおよび単球活性における有意差は、観察されなかった。しかし、食欲、脱毛症、情緒安定性、および全身性脱力感のような化学療法に関連する副作用はすべて、ABMK処置によって改善された。総合的に考慮すると、これは、ABMK処置が化学療法を受けている婦人科がん患者にとって有益であり得ることを示唆している。

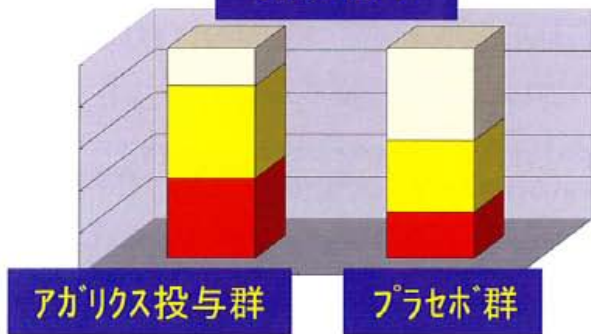


※NK細胞の活性において有意差が確認された

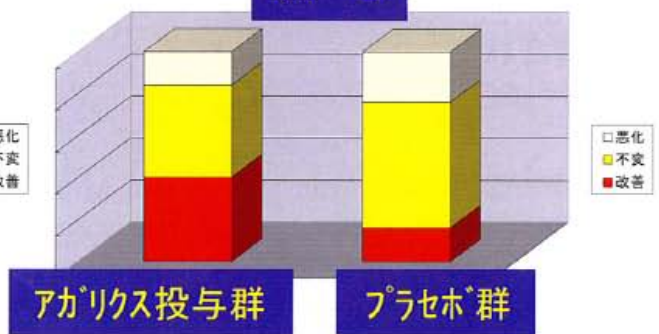
QOLの改善

活力低下

脱毛



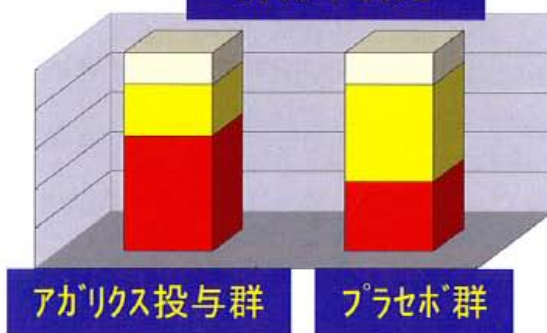
□悪化
■改善
■不変



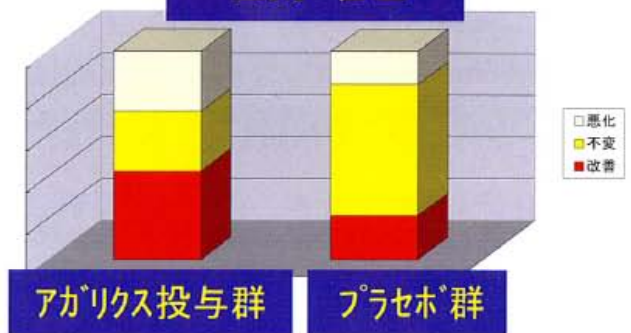
□悪化
■改善
■不変

情緒不安定

吐気・嘔吐



□悪化
■改善
■不変



□悪化
■改善
■不変

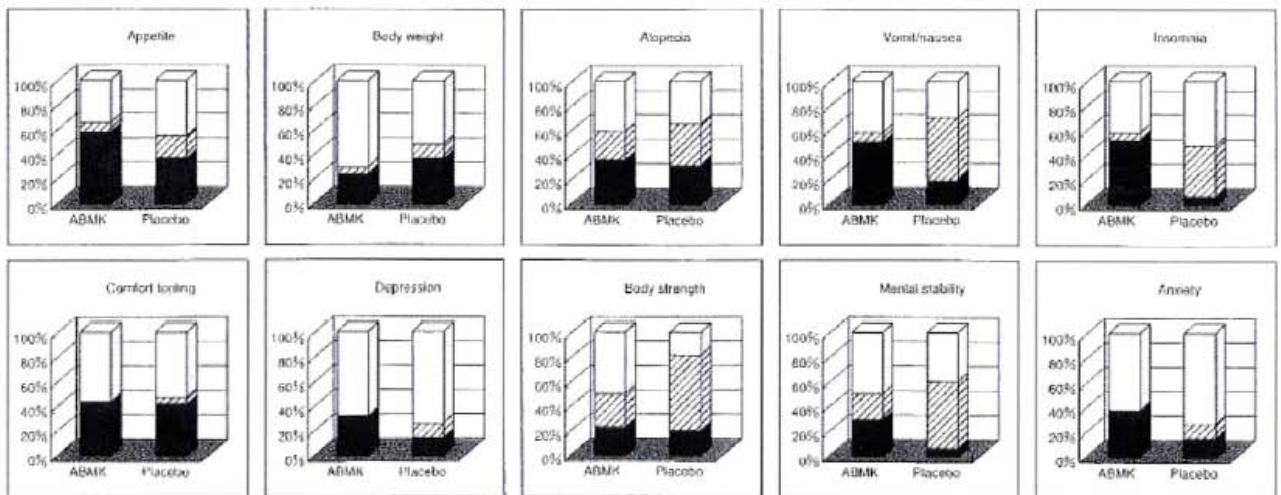


Fig. 3. Evaluation of qualities of life in patients undergoing chemotherapy with and without *Agaricus blazei* Murill Kyowa (ABMK) treatment. Gynecological cancer patients were treated with either carboplatin (300 mg/m²) plus VP16 (100 mg/m²) or carboplatin (300 mg/m²) plus taxol (175 mg/m²) at 0, 3, and 6 weeks. ABMK was orally administered every day (three packs/day). At the time of completion of treatment, the patients were asked to fill out questionnaires to evaluate their own physical and mental conditions. ■, improved; ▨, worsened; □, no change.